



# 世界最大14億人のインド市場 ～ベンガルールの魅力と現実～



ジェトロベンガルール事務所長 水谷 俊博 (大垣市出身)

インドに来てつくづく実感することの一つに、この国を一つの国として捉えることの難しさがある。中国を抜き今や世界第一位の14億人以上の人口を抱え、日本の9倍近い国土を有するとあれば当然だろう。立場上、多くの日本企業の関係者にインドの概況をブリーフィングする機会が多いが、地域ごとの特徴を踏まえて説明することの難しさを日々実感する。今回は私が住むインドのベンガルールから現地情報をお届けする。

## インドのシリコンバレー ベンガルール

ベンガルールはインドの南部に位置し、1年を通して穏やかな気候で過ごしやすいことから避暑地として知られている。現在はGoogleやAmazonなど米国の大手IT企業の研究開発拠点多く所在し、インド中から優秀なエンジニアが集まるイノベーション都市として発展を続けている。そうした背景もあり、ベンガルールはインドで最も英語が



悪名高いベンガルールの交通渋滞

通じる都市と言われている。ベンガルールを州都とするカルナータカ州の公用語はカンナダ語だが、ビジネスでは広く英語が通じる点は我々のような駐在員にとっては大変ありがたい。

## 直面する言語と食の壁

ただし英語といってもインド英語である点には注意が必要だ。赴任当初はインド英語の独特なアクセントに随分手こずったものだ。もちろん、インド人はそんなことはお構いなしに早口でまくし立ててくるから、随分とメンタルが鍛えられる。言語以外にインドで苦勞する事といえばやはり食事だろう。南インドはミールスと呼ばれる定食スタイルのカレーが一般的で、バナナの葉っぱがお皿として

使われる。インド人はある程度辛さに慣れているが、日本人からするとやはり相当辛い。カレーの中に混じっている唐辛子を誤って食べてしまうと口中で火が噴く事態となる。様々な香辛料が入っているので、ミールスの最後の方は辛さでだんだん味が分からなくなってくる。私は大垣市に生まれ育ち、小さい頃は鮎料理を食べに両親にやなに連れて行ってもらったものだ。インドのカレーはパンチがありそれはそれで美味しいのだが、油も相当含まれていてこってりしている。たまにあっさりした鮎の塩焼きや鮎雑炊を無性に食べたくなる。(絶対食べられないけど)



牛が道をふさぐこともしばしば

## 日本企業の進出と日本人コミュニティの発展

そんなベンガルールだが、日本のトヨタ自動車が1997年に法人を設立、現在は市内で3つ目となる工場を建設中だ。インドの自動車市場の拡大を背景に輸送機器関連企業を中心に日本企業のビジネスは大きく拡大している。ベンガルール日本商工会の法人会員数も200社を超え、2カ月に一度開催される会合には毎回150人を超える日本人が集結する。ベンガルールには約1,200人の邦人が住んでいるとされるが、トヨタのグループ企業からの駐在員も多いため、東海三県の出身者が多いのも特徴だ。

日本人駐在員にとっては苦勞が多いものの、日々発展を続けるベンガルール。日本企業によるビジネスの拡大傾向が続いていることもあり、日本人同士の結束は固く一緒にインドを盛り上げていこうとする雰囲気がある。新しく赴任を始める若い世代の駐在員も多く、ベンガルールの日本人社会はこれからますます盛り上がりを見せるだろう。